

機械器具 51 医療用嚙管及び体液誘導管
高度管理医療機器 心臓・中心循環系用カテーテルガイドワイヤ 35094114

HB-IVR ガイドワイヤ 7

再使用禁止

【警告】

- 1) 本品を使用中に異常が発生または異常が疑われる場合、無理な操作はせず、不具合・有害事象に充分注意し、X 線透視下にて確認し、慎重にシステムごとの抜去を行うこと。システムごとの抜去により重大な不具合・有害事象が発生すると判断される場合、直ちに血管内治療を断念し、緊急外科手術の処置を実施すること。[原因がわからないまま操作をすると、本品の破損や断裂及び血管損傷などの恐れがあり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- 2) 先端は血管選択性に優れているが、高い血管穿通力があるので、細い血管に挿入する際には慎重な操作をすること。[慎重な操作を怠った場合、血管の損傷などの恐れがあり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- 3) 本品には滑り性能を高めるよう親水性コーティングを施している為、十分に注意して取り扱うこと。[慎重な操作を怠った場合、血管穿孔を起こす可能性がある。]

【禁忌・禁止】

- 1) 再使用禁止
- 2) 再滅菌禁止
- 3) 適用対象 (次の部位、患者には適用しないこと)
 - ・冠動脈及び脳血管には使用しないこと。[本品は冠動脈及び脳血管用に設計されていないため、使用の安全性は確認されていない。]
 - ・下記の症状・疾患のある患者には適用しないこと。[症状悪化の可能性のある。]
 - ・緊急外科手術に適応できない患者、造影剤等施術に必要な薬剤に対して重篤なアレルギー反応を示したことがある患者には使用しないこと。[生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
 - ・その他、医師が不適と判断する患者には使用しないこと。[患者の状態によっては生命に関わる有害事象を引き起こす恐れがある。]
- 4) 併用禁忌[相互作用の項参照]
 - ・有機溶剤を含んだ薬剤及び消毒剤は絶対に使用しないこと。
 - ・本品の表面をアルコール、グルコン酸クロルヘキシジン水溶液等に浸けたり、薬剤や他の溶剤等が染みたガーゼ、脱脂綿等で拭かないこと。
 - ・本品の表面と金属部分が接触する可能性のあるデバイス類との併用はしないこと。
 - ・ステント等のエッジに本品をこすらないこと。
 - ・スネア等の把持具で本品を掴まないこと。
 - ・挿入時に抵抗を感じるようなカテーテルとの併用はしないこと。
 - ・パラレルワイヤーテクニックによるステント留置やステントストラットを通してのワイヤー操作は行わないこと。
 - ・乾いたガーゼや脱脂綿等で拭かないこと。
- 5) 使用方法

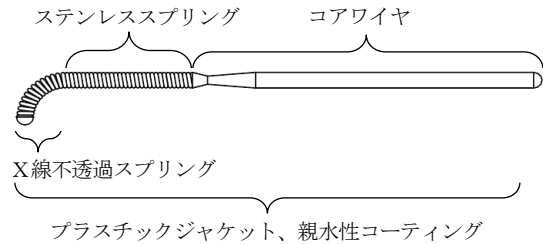
- ・本品はシェイピングを行わないこと。[本品の損傷、破断が生じる可能性がある。]
- ・本品の同一箇所を繰り返して曲げ伸ばしたり、湾曲した血管内で長時間連続して回転させたりしないこと。また、本品の先端が固定された状態で、同一方向に連続して 2 回転 (720 度) 以上のトルク操作をしないこと。[本品の破損、切断の可能性があり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]

【形状・構造及び原理等】

本品の最大外径は 0.46mm (0.018inch) である。

<形状>

製品ごとの仕様、附属品については、各製品のラベルを確認のこと。



X 線不透過部長: 30mm

附属品: トルクデバイス、ストレーナ

<原材料>

ポリウレタン、ポリビニルピロリドン、ニトロセルロース

【使用目的又は効果】

本品は冠動脈及び脳血管を除く末梢血管の血管内治療に用いるカテーテル等の位置調整及び移動の補助に用いるガイドワイヤである。

【使用方法等】

- 1) 本品をホルダーチューブごと滅菌袋から取り出す。また、附属のトルクデバイスとストレーナを小袋より取り出す。
- 2) ホルダーチューブに付いている保護キャップを本品の先端を折り曲げないように注意して取り外す。
- 3) 本品の後端をクリップから取り外し、後端がフラッシュコネクターから突き出ないように、本品の後端をホルダーチューブ内に収納する。
- 4) シリンジを用いて、フラッシュコネクターからホルダーチューブ内へ、ヘパリン加滅菌生理食塩液を注入する。この時、ホルダーチューブ先端よりヘパリン加滅菌生理食塩液が溢れるまで、確実に注入する。
- 5) ホルダーチューブより突き出ている本品先端のホルダーチューブ側を注意して把持し、ゆっくりと本品をホルダーチューブより抜去する。
- 6) 併用するカテーテル内腔には、前もってヘパリン加滅菌生理食塩液を満たしておく。
- 7) 本品の先端よりカテーテル内腔に挿入、又は本品の後端よりカテーテルを導入して、本品を目的の部位まで進める。
- 8) 手技終了後は、本品を慎重に引き抜く。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- 1) 本品をホルダーチューブより抜去する時に抵抗を感じる場合は、再度ホルダーチューブ内にヘパリン加滅菌生理食塩液を十分注入する。それでも抵抗を感じる場合は新しい製品に交換すること。[無理に取り出すと、ガイドワイヤの損傷、破断の恐れがある。]
- 2) 使用するカテーテル内に、本品を挿入する際には、必ず十分にヘパリン加滅菌生理食塩液を注入しておくこと。
- 3) カテーテルと本品の操作による血栓予防の為、カテーテル内をヘパリン加滅菌生理食塩液等で灌流させること。[血栓の付着や末梢血管の閉塞を引き起こす可能性がある。又、表面の滑り性が十分に発揮できない場合もある。]
- 4) 造影剤や塞栓物質等を注入したカテーテルに、本品を挿入する際には、必ず事前にカテーテル内をヘパリン加滅菌生理食塩液等で造影剤や塞栓物質等を十分に洗い出して本品を使用すること。[表面の潤滑性を損なったり、血栓付着の原因となる。]

- 5) 使用するカテーテル等に本品を挿入し難い場合、ストレーナを用いて本品を挿入する。
- 6) トルクデバイスは締め付けすぎないよう、注意して締めること。
[トルクデバイスを本品に固定する際に、あまり強く締めこむと本品が損傷する場合がある。]

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) 本品は、使用前に必ずガイドワイヤホルダー内、及びカテーテル内にヘパリン加滅菌生理食塩液を注入し、全表面が濡れたことを確認してから取り出し、カテーテル等の挿入を行うこと。
- 2) 使用前に先端（柔軟側）、後端を確認し、必ず先端から挿入すること。
- 3) 万一本品に折れ曲がりがある場合は、使用を中止し新しい製品と交換すること。[血管を傷つける可能性がある。]
- 4) 血管及びカテーテル内で本品の急激な操作や、血管閉塞部や細い血管に対して無理な操作、挿入をしないこと。[本品の曲り（折れ）や血管を傷つける可能性がある。]
- 5) ガイドワイヤの表面に付着した血液や造影剤を除去する場合はヘパリン加滅菌生理食塩液に浸したガーゼ、脱脂綿等で強く拭き取らないこと。[本品の破断が生じる可能性がある。]
- 6) 本品の操作は、高解像度の X 線透視下にて製品の動きを確認して行うこと。

2. 相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）

- 1) [併用禁忌]（併用しないこと）

医薬品・医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
有機溶媒（アルコール等）	本品には有機溶媒（アルコール等）を使用しないこと。	本品の樹脂素材に影響し、本品が損傷、破損等することにより、機能しなくなる可能性がある。
消毒剤（例：グルコン酸クロルヘキシジン水溶液）	本品には消毒剤（グルコン酸クロルヘキシジン水溶液等）を使用しないこと。	本品の樹脂素材に影響し、本品が損傷、破損等することにより、機能しなくなる可能性がある。

- ・ 本品の表面と金属部分が接触する可能性のあるデバイス類との併用はしないこと。[本品の破損、切断の可能性がある。]
- ・ ステント等のエッジに本品をこすらないこと。[本品の損傷、破断が生じる可能性がある。]
- ・ スネア等の把持具で本品を掴まないこと。[本品の損傷、破断が生じる可能性がある。]
- ・ 併用するカテーテルへの挿入時に抵抗を感じるようなカテーテルとの併用はしないこと。[併用するカテーテルの中には先端内径の許容誤差により操作中に本品の潤滑性が損なわれる可能性がある。]
- ・ パラレルワイヤーテクニックによるステント留置やステントストラットを通してのワイヤー操作は行わないこと。[本品の破損、切断の可能性があり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 乾いたガーゼや脱脂綿等で拭かないこと。[強く拭き取ると、親水性コーティングの損傷により表面の潤滑性が著しく低下する。]

- 2) [併用注意]（併用に注意すること）

- ・ 先端は血管選択性に優れているが、高い血管穿通力があるので、マイクロカテーテル等を追従させる際には慎重な操作をすること。[慎重な操作を怠った場合、血管の損傷などの恐れがあり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 2本以上のガイドワイヤを使用する場合、ガイドワイヤが併用するカテーテルと絡まないように十分注意すること。[カテーテルや本品が破損する恐れがあり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 活栓付きカテーテルを使用する場合には、カテーテル挿入中の活栓操作は絶対に行わないこと。[カテーテルや本品が破損する恐れがあり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 本品を留置されたステント本体の内腔に通過させる場合は、ゆっくり注意深く行うこと。[ステントのずれ、損傷や本品の破損、切断の可能性があり、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]
- ・ 術中は患者の状態を考慮して適切な抗凝固あるいは抗血小板療法を行うこと。[適切な療法を行わないと、場合によっては血栓が発生し、生命に関わる有害事象が発生する可能性がある。]

- ・ トルクデバイスを固定したままトルクデバイスを移動しないこと。
[表面のコーティング、プラスチックジャケットが剥離する恐れがある。]

3. 不具合

本品は非常に精密に作られているので、本品に無理な力が加わると、以下のような不具合の可能性はある。したがって、前述の使用上の注意に記載された事項を守った上で本品を使用すること。

- 1) 重大な不具合

- ・ 破損（断裂、伸び、折れ、曲がり、コーティング剥がれ、プラスチックジャケットの剥がれ）

- ・ 挿入困難
- ・ 抜去困難

4. 有害事象

本品の使用に際し、以下の有害事象が生じることがある。有害事象が重篤な場合には重大な合併症を引き起こす可能性がある。ただし、有害事象は、これらに限定されるものではない。

- 1) 重大な有害事象

- ・ 死亡
- ・ 感染症
- ・ 血圧低下
- ・ 出血性合併症
- ・ 塞栓
- ・ 梗塞
- ・ 血管閉塞
- ・ 血栓
- ・ 虚血
- ・ 不整脈
- ・ 血管解離
- ・ 血管攣縮
- ・ 眩うん
- ・ 頭痛
- ・ 嘔吐
- ・ 体内遺残
- ・ 血管穿孔
- ・ アレルギー反応

5. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

本品は X 線透視下で使用するため、妊婦又は妊娠している可能性のある患者に対しては、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。

【保管方法及び有効期間等】

<保管方法>

- ・ 保管の際には、折り曲げたり重い物の下に置いたりせず、また水濡れに注意し、高温、多湿、直射日光を避けること。

<有効期間>

- ・ 本品の製品ラベルに記載されている「有効期限」までに使用すること。[自己認証(当社データによる)]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：フィルメック株式会社

住所：愛知県名古屋守山区脇田町 1703 番地